FRP浴槽

ポリエック

据置形

PB-1112BL(R)
PB-1102A(L)R-J
PB-1202A(L)R-J
PB-802B(BF)L(R)
PB-802C
PB-902C(BF)
PB-1002BL(R)
PB-802BL(R)
PB-902B(BF)L(R)
PB-902C
PB-802C(BF)
PB-902BL(R)
PB-1002B(BF)L(R)

埋込形

PB-801BL(R)
PB-901BL(R)
PB-1001BL(R)
PB-1111BL(R)

このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。

施工前に必ずお読みください

- 施工に際しては、必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
  この施工説明書は浴槽周囲の壁仕上げ完了まで活用します。捨てずに次工程の施工業者の方に手渡してください。
  ※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
- 「保証書」および「取扱説明書」は貴店名、据付年月日を忘れずに記入の上、必ずお客様にお渡しください。
- 人造大理石浴槽、FRP浴槽を処分する場合は、許可を受けている処理業者に依頼するか、破砕の上許可された処理場にて処理してください。

24時間バス（浴槽水浄化保温器）に該当する機器は使用しないでください。

※24時間バスに該当する機器を継続して使用すると、浴槽表面の**荒れ・退色等を著しく促進する場合**があります。

安全のため必ずお読みください

- ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や、家財の損害に結び付くものです。
  安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
  施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

表示マークおよび絵表示の説明

◎**表示マークについて**

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次のマークで区別し、説明しています。

⚠注意	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠	「注意しなさい！」（上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
⊘	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
❗	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

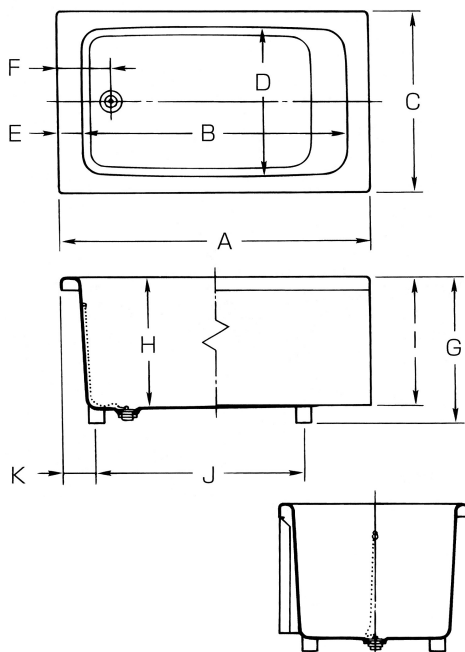
⚠ 注意

浴槽の上に乗って作業をしないでください。 ※足を滑らせて**ケガをしたり、浴槽にキズが付く恐れ**があります。	⊘
施工に使用する溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は容器等に記載の注意表示に従って、正しく使用してください。 ※使い方を誤ると**人体に悪影響を及ぼしたり、使用部材の劣化や損傷の原因**になることがあります。	❗
2階以上の階に施工する場合は、必ず床の防水工事を行ってください。 ※施工に不備があると、漏水により**家財を汚したり、腐らせる恐れ**があります。	❗
浴槽と壁・タイルの接合部分は、必ず3mm以上のクリアランスをとり、シリコンシーリングをしてください。 ※施工に不備があると**漏水したり、タイルや浴槽が破損する恐れ**があります。	❗
循環釜を取り付ける場合は、循環釜の施工説明書もよくお読みの上、正しく取り付けてください。 ※取付けが不完全な場合、漏水により**家財を汚したり、腐らせる恐れ**があります。	❗
循環釜を取り付ける場合、エプロンを貫通した穴あけは、絶対に行わないでください。 ※万一空だきをした場合、**火災の恐れ**があります。	⊘

施工前のご注意

- 浴槽本体に破損等がないことを確認してください。
  ※商品には万全を期してありますが、輸送等で**破損している場合**があります。
  そのような場合は、取扱店へお問い合わせください。
- 必ず搬入経路を確保してください。
  また、運搬するときは必要人数を確保し、引きずったり、エプロン部に力の加わるような運搬はしないでください。
  ※**浴槽が破損する恐れ**があります。
- 排水口の固定がゆるんでいないことを確認してください。
  ※輸送等で**ゆるんでいる場合**があります。
- 納品された部品の確認を必ず行ってください。
- 壁材との取合いを確認してください。
- 浴槽裏面、エプロン裏面の発泡スチロールを取らないでください。

商品図

F E D B C A H G K J

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
PB-1202AL/L11-J	1200	1040	720	600	80	180	585	530	530	800	130
PB-1111BL	1100	950	720	600	75	200	570	500	395	750	140
PB-1102AL/L11-J	1100	950	720	600	70	170	600	550	550	710	120
PB-1112BL	1100	950	720	600	75	200	570	500	535	750	140
PB-1001BL	1000	895	720	610	50	160	660	610	400	710	115
PB-1002C	1000	895	720	610	50	160	660	610	590	710	115
PB-1002BL	1000	895	720	610	50	160	660	610	590	710	115
PB-901BL	900	800	700	600	50	145	660	610	400	700	100
PB-902C	900	800	700	600	50	145	660	610	590	700	100
PB-902BL	900	800	700	600	50	145	660	610	590	700	100
PB-801BL	800	700	700	600	50	145	660	610	400	600	100
PB-802C(BF)	800	700	700	600	50	145	660	610	590	600	100
PB-802BL	800	700	700	600	50	145	660	610	590	600	100

部品の確認

組フタ
施工説明書
浴槽
取扱説明書・保証書セット

※取扱説明書・保証書は店名を記入の上、必ずお客様にお渡しください。　※組フタはPB-1202AL(R)、PB-1102AL(R)のみ付属です。

施工プラン

プラン1　プラン2　プラン3　プラン4

施工例

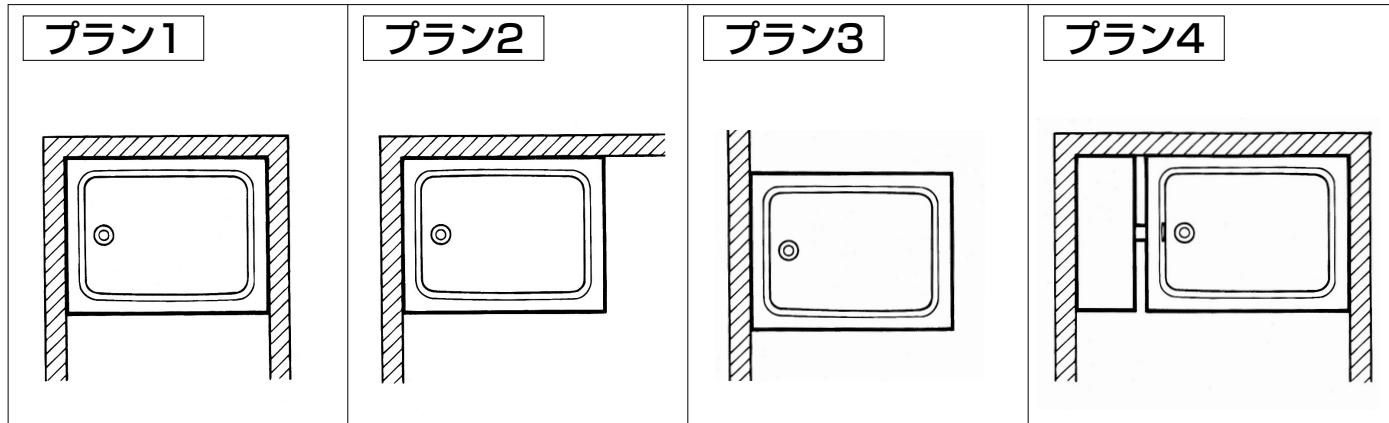
（落とし込みタイプ）

壁タイル
床タイル
スノコ等
モルタル
コンクリート
排水管
ブロックまたはレンガ
脚固定モルタル
ブロックまたはレンガ

（据置タイプ）

壁タイル
脚固定モルタル
モルタル
排水管
コンクリート

（埋込タイプ）

壁タイル
シリコンシーリング・緩衝材
床タイル
モルタル
コンクリート
排水管
ブロックまたはレンガ
シリコンシーリング・緩衝材
脚固定モルタル

施工上のご注意

- 工事中は浴槽全体をビニールカバーやダンボール等で保護してください。
  ※浴槽が**破損したり、表面にキズが付く恐れ**があります。
  ダンボール
- 絶対に土足でのったり、脚立等を浴槽内に立てないでください。
  ※浴槽が**破損したり、表面にキズが付く恐れ**があります。
- 浴槽にモルタルを付着させないでください。さらに、右図のようなモルタル埋込みは絶対にしないでください。
  ※裏面から圧力が加わり、**浴槽が長持ちしない恐れ**があります。
  モルタル
- 浴槽に硬いものをぶつけたり、工具等を落さないでください。
  ※浴槽が**破損したり、表面にキズが付く恐れ**があります。
- トーチランプの火や溶接の火花、タバコの火等が浴槽に当たらないようにしてください。
  ※浴槽が**破損したり、変色する恐れ**があります。
- 浴槽の上部に重いものを載せたり、表面にモルタル等を付着させないでください。
  ※浴槽に**キズが付く恐れ**があります。
- 浴槽手すり部の養生シートは、施工が完了するまで、はがさないでください。
  ※浴槽表面に**キズが付く恐れ**があります。
  ただし、手すり部を埋め込む場合は埋込部のシートのみをはがして施工してください。
- 浴槽にタイル洗いの塩酸等を含んだ洗剤をかけないでください。
  ※浴槽が**傷みます**。
  万一かかった場合は、すぐに水で洗い流してください。

■施工に際して

この商品は施工のタイプにより、施工手順が異なります。
右表に従って施工を行ってください。

施工のタイプ	埋込タイプ	落とし込みタイプ	据置タイプ
施工手順	1→2→3A→4	1→2→3B	1→3C

施工手順

1 循環釜接続用の穴あけ（循環釜を取り付ける場合）

循環釜を取り付ける場合は、循環釜接続用の穴あけを行います。

⚠注意

循環釜の施工説明書もお読みの上、正しく取り付けてください。
※取付けが不完全な場合、漏水により**家財を汚したり、腐らせる恐れ**があります。

エプロンを貫通した穴あけは、絶対に行わないでください。
※万一空だきをした場合、**火災の恐れ**があります。

①穴あけ位置（下図斜線部）を確認します。

●穴あけ位置（下図斜線部）以外に穴をあけないでください。
※**漏水の原因**となります。
循環釜の施工説明書もお読みの上、穴をあけてください。

短辺　長辺

品　番	A	B	C	D	D'	E
PB-1200タイプ	360	180	660	130	140	330
PB-1100タイプ	360	170	610	130	140	310
PB-1110タイプ	300	230	240	190	200	370
PB-1000タイプ	360	160	620	130	140	355
PB-900タイプ	380	150	580	130	140	355
PB-800タイプ	380	150	480	130	140	355

※斜線部はφ50mmの穴をあける場合の穴あけ中心位置を示します。
※φ50mmより大きな穴をあける場合はその分、斜線部の内側によせて穴をあけてください。
※長辺側への穴あけは三方エプロンの場合、不可能になります。

②**φ5mmのドリル**でセンター穴をあけます。

●ドリルはよく切れるものをお使いください。
そして、穴あけ面と垂直にして、強く押し付けず、ゆっくりと慎重に行ってください。
※**穴の周囲が破損する原因**となります。

③浴槽裏面（外側）の保温材を循環金具より広く（100mm角程度）取り除きます。

●保温材の取り残しのないようにしてください。
※**漏水の原因**となります。
●保温材を取り除く際に、浴槽にキズを付けないようにしてください。

④浴槽表面（内側）からセンター穴をガイドにして、ホルソーで肉厚の約半分（約2mm）まで穴をあけます。

●ホルソー（超硬刃付き）やホルソーのセンタードリルはよく切れるものをお使いください。
そして、穴あけ面と垂直にして、強く押し付けず、ゆっくりと慎重に行ってください。
※**穴の周囲が破損する原因**となります。
●ホルソーのセンタードリルが浴槽を貫通した際に、ホルソーが浴槽に強くぶつからないようにしてください。
※**穴の周囲が破損する原因**となります。
●一気に貫通しないでください。
※**穴の周囲が破損する原因**となります。

⑤浴槽裏面（外側）からホルソーにて貫通穴をあけます。

⑥穴あけ後はサンドペーパー（＃150程度）等で穴の切口を滑らかに仕上げます。

●サンドペーパー等で仕上げる際に、浴槽表面（内側）にキズを付けないようにしてください。

【埋込、落とし込みタイプの場合】

2 浴槽の下地作り

①排水口の位置を商品図で確認し、φ75mm以上の穴を設けます。
※排水は**間接排水**としてください。

②排水口への排水勾配（1/50～1/100程度）を設けます。
③浴槽脚部の位置を商品図で確認し、土台の位置を決めます。
④浴槽の土台にはレンガ、またはブロックを使用し、上面が水平になるように固定します。
●土台は脚全体が載せられる大きさのものを使用してください。
※破損や転倒の原因となります。

⚠注意

2階以上の階に施工する場合は、必ず床の防水工事を行ってください。
※施工に不備があると漏水により、**家財を汚したり、腐らせる恐れ**があります。

【埋込タイプの場合】

3A 浴槽の据付け

〔保温材について〕

●保温材は付けたままで施工してください。
その際、保温材がブロックやレンガと当たらないようにしてください。万一当たる場合には、その部分だけ保温材を取り除いてください。
●保温材と循環釜はできるだけ離れるよう施工してください。万一循環釜・接続管と直接当たる場合には、その部分だけ保温材を取り除いてください。

①浴槽の土台に、モルタル（固練り）を盛ります。
②スケールを立て、浴槽の上に水準器を置いて、逃げ墨からの寸法に注意しながら、下図のように真上から徐々に浴槽を所定のレベルまで押し下げます。
※所定のレベルまで押し下げたら、エプロンの下にクサビを入れて、これ以上下がらないようにしてください。

●浴槽を所定の位置より下げ過ぎた場合には、浴槽を外してモルタルの盛り上げからやり直してください。
※**ただ持ち上げただけでは、浴槽は浮き上がって固定されません。**
●モルタルが固まるまで浴槽に乗ったり、釜を取り付けないでください。
※**浴槽がかたむいたり、沈下する場合**があります。
●モルタルや砂で浴槽を直接固定する等、裏面から直接圧力が加わる施工や、手すり部だけで支える施工は絶対にしないでください。
※浴槽が**破損する恐れ**があります。

【落とし込みタイプの場合】

3B 浴槽の据付け

〔保温材について〕

●保温材は付けたままで施工してください。
その際、保温材がブロックやレンガと当たらないようにしてください。万一当たる場合には、その部分だけ保温材を取り除いてください。
●保温材と循環釜はできるだけ離れるよう施工してください。万一循環釜・接続管と直接当たる場合には、その部分だけ保温材を取り除いてください。

①浴槽の土台に、モルタル（固練り）を盛ります。
②浴槽の上に水準器を置いて、真上から徐々に浴槽を押し下げます。
※水平がとれていないと、浴槽内に水が残る場合があります。

●モルタルが固まるまで浴槽に乗ったり、釜を取り付けないでください。
※**浴槽がかたむいたり、沈下する場合**があります。
●モルタルや砂で浴槽を直接固定する等、裏面から直接圧力が加わる施工や、手すり部だけで支える施工は絶対にしないでください。
※浴槽が**破損する恐れ**があります。

【据置タイプの場合】

3C 浴槽の据付け

〔保温材について〕

●保温材と循環釜はできるだけ離れるよう施工してください。万一循環釜・接続管と直接当たる場合には、その部分だけ保温材を取り除いてください。

①浴室床面に浴槽を置きます。
②浴槽脚部をモルタル（固練り）等で固定します。
※この施工方法は浴槽が倒れやすいので、転倒防止対策を行ってください。

4 仕上げ

〔壁付面取合い例〕

⚠注意

浴槽と壁・タイルの接合部分は必ず3mm以上のクリアランスをとり、シリコンシーリングをしてください。
※施工に不備があると**漏水したり、タイルや浴槽が破損する恐れ**があります。

●バックアップ用緩衝材は、クッションテープ等の柔らかいものを調達してください。
※塩化ビニールやゴム系のバックアップ材の中には、その成分によりシリコンシーリングを黄変させるものがありますので使用前に確認してください。（推奨テープ：ポリエチレン発泡体のバックアップ材）
●「施工例2」のように、手すり部を壁に埋め込む場合、埋込寸法は15mm以内にしてください。（浴槽の両側を埋め込む場合は、両側の合計で15 mm以内）
※**風呂フタが置けなくなったり、はみ出したりする場合があります。**

施工例1　施工例2　施工例3

〔エプロン取合い例〕

施工例1　施工例2

循環パイプの接続例

必ず上部給湯パイプは浴槽に向かって上り勾配に、下部給水パイプは下り勾配になるように接続してください。
※循環パイプの接続が悪いと、湯の沸き（熱効率）が悪くなるばかりでなく、循環釜に悪影響を及ぼします。

■良い例　■悪い例

給湯・給水栓の取付例

給湯・給水栓を取り付ける場合は、浴槽の手すり部に湯水が当り、飛び散らないようにしてください。
※長期間使用していると、水質により手すり部に水アカやサビが付着する場合があります。

■良い例　■悪い例

確　　認

1 **清掃**
浴槽内のゴミや異物を取り除きます。

2 **水漏れの確認**
給水、排水して循環金具の取付部等より水漏れがないことを確認します。

3 **保護**
浴室の全ての工事が完了するまで浴槽全体をダンボール等で十分保護します。

4 **引渡し**
取扱説明書により正しい使い方をご説明の上、取扱説明書、保証書（内容記入の上）を必ずお施主さまにお渡しください。

INAX